これからの
クリエイティブ共同作業
The Drum
Adobe

目次

はじめに	01
調査方法	03
主な調査結果	04
なぜ、これからはクリエイティブ共同作業か	06
結果を出す	08
最小限のリソースを有効活用	10
共同作業ツールに後ろ向きのマーケターがいる理由	12
懸念を乗り越えて、その先へ	14
まとめ	16

はじめに

クリエイティブ共同作業：新しい世界秩序

新しい世界秩序とは、クリエイティブやイノベーションをオフィス内の枠組みで考えるのではなく、日常生活の一部とすることです。そのためには、いつどこにいても思い立ったときに作業でき、誰とでも共同作業できる環境でなければなりません。クリエイティブ共同作業により多くのクリエイターの日常業務が効率化するため、そのための共通プラットフォームをテクノロジーが期待されるところでしょう。確かにテクノロジーにはその実現能力がありますが、まだ多くは採用されていないという現実があります。クリエイティブ業界では、クリエイティブ共同作業ツールやテクノロジーを業務に活用しているのは36%に過ぎず、23%はどのツールが最適かを判断するための十分な情報がないと感じています。つまり、職場に真の意味で共同作業テクノロジー環境を構築するためのスペース、ツール、文化を取り入れるには、まだ多くの課題が残されていると言えます。

The Drumと共同で実施した今回の調査は、その実現に向けて大きな前進となりました。この調査は、現在広く採用されているクリエイティブ共同作業ツールについての理解を深め、実装を妨げる障害を理解し、より効果的な活用方法を明らかにしています。

これからの
クリエイティブ共同作業

アドビでは、以下の要因から、クリエイティブ共同作業に関する課題とチャンスを模索する時期に来ていると感じています。

1 テクノロジーの高速化により接続性が向上しているため、ユーザーはこれまでより多くのデバイスで好きなものを楽しむことができ、コンテンツの消費量が増加しています。

2 職場で共同作業の重要性が高まり、様々な部門間での相互交流が増えています。そのため、マーケターも個人ではなく、チームの一員としての貢献が求められます。

3 企業はこれまで以上に多くのコンテンツを作成する必要があり、安定した供給を維持する方法を模索しています。つまり、変化のスピードに対応するためには、クリエイティブを核とすることが重要です。

調査方法

アドビはThe Drumと提携して、これからのクリエイティブ共同作業を探り、クリエイティブプロセスを支援するツールとテクノロジーを調査しました。

このレポートでは、166人以上のシニアクリエイターを対象に調査をおこないました。以下では、クリエイティブ共同作業ツールの重要性とどのように取り組むか、およびAIがクリエイティブ業務に及ぼす影響について考察します。

主な調査結果：

調査対象のほとんどのクリエイターがクリエイティブ共同作業ツールと新しいテクノロジーがコンテンツの向上に役立つと認識していましたが、現在業務で積極的に利用していると回答したのは、

36%だけでした。

憂慮されるのは、これらのツールをまったく使用していないと回答した人が

52%もいることです。

また、ほとんどの調査対象クリエイターがクリエイティブ共同作業ツールはクリエイティブコンテンツの向上に役立つと明確に認識しているにもかかわらず、無料または助成対象のソフトウェアを使用していると回答したクリエイターもいました。

16%の回答者が、クリエイティブ共同作業ツールを使用する最大のメリットとして、効率性と生産性の向上を挙げています。

調査によると、業務でクリエイティブ共同作業ツールを利用したことで、様々な好結果が得られています。

34%が、これからのデザイナーはツールを使用することでより良いコンテンツの制作に専念できる、

31%が「全体的な生産性が向上する」、

29%が、職場のデータを有効活用でき、ワークフローが簡素化する、

27%が、デザインに関するビジョンが広がる、

25%が、より良い意思決定に役立つ洞察力が深まると回答しています。

ごく一部からは、クリエイティブ共同作業ツールの使用を躊躇しているという回答があり、

14%が「デザインに感情がなくなる」

と回答、8%が「クリエイティブ業務がなくなり、職を失うのではないか」と懸念しています。

なぜ、これからは
クリエイティブ共同作業か

チームワークよりも個人の能力でマーケティングを築いてきた時代もあったでしょうが、現在はテクノロジーの進歩により、職場での共同作業が重要視されています。42%のマーケターが、今後5年間で業界におけるクリエイティブコンテンツの重要性が増すと考えていることがわかりました。これは、クリエイティブが組織内のほとんどの人にとって重要なスキルになることを示す統計です。

このような職場でのクリエイティブ活用を促進するには、共同作業を担うテクノロジーの全面的な導入が不可欠です。Adobe Creative Cloud、Slack、Figma などのプログラムは、チームが地理的にどれだけ離れていてもシームレスに仕事ができます。プロジェクトやキャンペーンを適時に同期でき、同時に一箇所で作業できるため、リアルタイムにコメントや作業をおこなうことができ、プロジェクトを迅速に推進できます。また、すべてのコンテンツとやり取りが一元的に保管されるため、過去のやり取りを簡単に参照し、レポートやフィードバックを共有できます。中でも最大の利点は、バックグラウンドで機能するツールのため、密に連絡を取りながら制作を継続できることです。

このレポートでは、166人のシニアクリエイターを対象に、クリエイティブ共同作業ツールにどのようなメリットがあるかを検証し、こうした新しいテクノロジーを職場に導入しない企業がある理由についても調べました。調査対象者には、これからのクリエイティブ共同作業とクリエイティブプロセスについて考えてもらいました。調査対象のエグゼクティブの10人中6人が、これらのツールによってチームでの業務が効率的になることを知っていると回答しました。オープンなコミュニケーション方法があれば、クリエイターはプロジェクトをどのように実現するかに迷うことなく、集中して開発を進めることができるため、すぐに制作に取り掛かれるのは明らかです。

クリエイティブ共同作業ツールを使うことで得られる成果も認識しており、11.7%が「より良いコンテンツの制作に貢献した」と回答しています。9.2%弱が「チーム間のコミュニケーションが強化された」と回答。ツールを使うことで、より相乗効果が得られるとの回答もありました。回答者の約8.6%が、共同作業ツールを使うことでクリエイティブ業務に集中できると感じ、7.4%が、チームのメンバーが自由に会話できる機能について「家族のような感じ」とその使用感を表現しています。

結果を出す

例えば、VCCPではPhotoshop、After Effects、Illustratorなどの共有ライブラリが人気のツールとなっています。VCCPのデザインディレクターであるMike Shaw氏は次のように述べています。「このツールのおかげで、いくつものスタジオ間で中核となる要素をグローバルに共有でき、ブランドの一貫性を維持できるようになりました。デザイナーが正しいロゴ、フォント、カラーパレットを使用しているか確認する必要がなくなったからです。ロゴを変更するときは、ライブラリのアセットを変更するだけで、すべてのワークステーションで瞬時に更新できるのも大きな利点です」

しかし、カルチャーを横に置いても、これらのクリエイティブ共同作業ツールがセールスに貢献する可能性に気づいていることは明らかです。12.9%が「これらのツールを使用することでビジネスの成長に貢献する」と回答し、4.3%が「ツールを使用した方がクライアントの満足度が高い」と考え、4.3%が「制作した作品の全体的な一貫性が向上する」と感じています。

多くのプログラムは、国際的にオフィス間をつなぎ、アイデアや素材をシームレスに共有するだけでなく、すべてのツールを一元的に集約することでプロセスが合理化されるため、プロジェクトを整理しやすくなります。Unit9のアートディレクターであるKarol Goreczny氏も同意しています。「クリエイティブ共同作業ツールは、相手との距離感を縮めることができます。そもそも距離がないからです。遠く離れた場所にいるチームのメンバー全員を同じ部屋に集めるようなものです。クリエイティブ共同作業ツールは、ひとりで制作するスピードはそのままに、チームで制作するメリットが得られます」

VCCPのアソシエイトクリエイティブディレクターであるJon Bancroft氏は、さらに次のように述べています。「クリエイティブ共同作業は、チームをひとつにまとめる接着剤であり、アイデアから実際に機能するものに変えるための欠かせない要素です。共同作業がなければ、我々は会社として機能しません。クリエイティブと制作に関する総合的な思考プロセスにより最高水準の仕事を遂行できます。システム内の各メンバーが仲間から何を期待されているかがわかるからこそ、プロセスにおける自分の担当に集中でき、アイデアを高めるために仲間にインスピレーションを与えることができるからです。そのため、より機敏に作業を進めることができます」

クリエイティブ共同作業ツールは、承認プロセスも高速化します。クリエイターは様々な機能をクライアントと共有できるからです。例えばVCCPは、デザインをAdobe XDでクライアントにメール送信し、クライアントのフィードバックと承認を得て、それを海外の開発チームに送り、参考資料やテンプレートとして活用しています。このようなツールを使うことで同期性が高まり、やり直すことなくプロジェクトを推進できます。

> “クリエイティブ共同作業は、チームをひとつにまとめる接着剤

最小限のリソースを有効活用

クリエイティブと共同作業が浸透し、コンテンツへの要求が高まると、多くのマーケティングチームは、以前と同じ予算と時間枠の中で生産性を上げて作業する必要に迫られます。限られたリソースで、より多くの成果を出さなければなりません。そのためには、協力者や関係者との緊密な連携が不可欠であり、生産性の向上にテクノロジーの活用は避けて通れません。このような考え方を導入する必要性は、明確にデータに反映されています。

回答者の3人に1人は、共同作業ツールがクリエイティブチームの生産性を向上させると考えており、28%はワークフローを簡素化すると考えています。また、29%のクリエイターは、ツールの進化によってデータの利用が増え、データをより有意義に利用する必要が出てくると考えています。一方、4人に1人はツールを使うことでより深い洞察が得られ、何がうまくいっているか、あるいは（同様に重要な）何がうまくいっていないかを分析できるようになると考えています。

3人に1人は、共同作業ツールがクリエイティブチームの生産性を向上させると考えている

これからのクリエイティブ共同作業については、それがどのようなものであり、短時間により多くの成果を求められるクリエイターのプレッシャーをどのように緩和するのかについて、多くの議論がなされてきました。実際のところ、全容が解明されたわけではありません。人工知能やクリエイティブ業務を支援するツールを全面的に活用することには、恐れや敵意があることも事実です。また、これらのテクノロジーが業界で完全に受け入れられて採用されるまでには、まだ長い道のりがあります。その上、クリエイターがテクノロジーを採用する意義を認めても、実際にそれを実行することを妨げる障壁がまだあります。

共同作業ツールに後ろ向きのマーケターがいる理由

このことは、今回のレポートに参加したクリエイターによって指摘されています。回答者の52%は、その多くが潜在的なメリットを明確に認識しているにもかかわらず、まだ業務でクリエイティブ共同作業ツールやテクノロジーを使用していません。なぜ投資しないのでしょうか？現在クリエイティブ共同作業ツールは、Adobe Creative Cloud と Microsoft Teams をはじめ、Slack、Figma、inVision、Google Drive、Spark AR Studioなど、数多く存在しているため、企業やクリエイターにとって、どのツールを使えばよいか迷うのも当然のことでしょう。

「市場にあるツールは多すぎますか？」という質問に対しては、16%が「はい」と回答しています。一方、23%は「どの技術とツールが自分に最適かを、情報にもとづいて判断できない」と回答しています。逆に約7%のクリエイターは「職場に新しいツールがありすぎて、自分の業務にどのツールを使うべきか判断できない」と回答しています。最も懸念されるのは、20%がまだ共同作業ツールは使いにくいと考えていることです。共同作業ツールの利点を伝える努力のさらなる強化が必要であることを示しています。

しかし、マーケターは同時に、人工知能のようなテクノロジーに対する意識は、テクノロジーの導入が自然に進むと共にこの数年で改善されるだろうとも考えています。Unit9のGoreczny氏は、加えて次のように述べています。「プロジェクトをより短時間で、より生産的に進めるための新しいテクノロジーや製品の登場により、共同作業の方法が変化しています。これからは、一部のプロセスがAIによって自動化され、プロジェクトそのものに使える時間とスペースが増えるでしょう」

テクノロジーとクリエイティブの関係は進化しており、それは悪いことではないとGoreczny氏は明言します。「VRやARは、クリエイティブ共同作業のプロセスにおいて、大きな役割を果たすでしょう。バーチャルルームに人々を集め、実際のプロジェクトをレビューし、状況に応じてフィードバックをおこないながら更新作業ができる優れたテクノロジーです」

Bancroft氏もこれに同意し、次のように説明しています。「AIは、プロセスを合理化し、滞りをなくすのに役立ちます。プロセスはより良く合理化され、共同作業の自然な方法として信頼を得るでしょう。テクノロジーによって、複数のチームや領域間の関係が構築され、アイデアを最大限に引き出すための選択肢や機会が増えます。最終的には、共同作業ツールをAIとデザインの生成原理と組み合わせ、共にアイデアをストレステストし、より迅速に行動できるようになると予想します。その結果、より良い成果が得られます」

Antoniのクリエイティブディレクター、Damon Ava氏は加えて次のように述べています。「ソフトウェアは過小評価されがちですが、我々のアイデアを実現するのはソフトウェアに他なりません。これがないとすると、ペンを持たない芸術家のようなものです」

懸念を乗り越えて、その先へ

予期されたことですが、これらのテクノロジーがクリエイティブプロセスにおいて果たす役割について懸念が示されました。約14%の回答者は、デザインが影響を受け「機械で作られたものは共感や感情を欠くのではないか」と考えています。一方、8%は、これらのツールにより、クリエイティブ業務の大半がテクノロジーに奪われるのではないかと懸念しています。Goreczny氏は次のように述べています。「AIがアートを生み出すという考えには懐疑的です。アートを特別な存在にしているのは人間だけが持つ感情であり、これは不可避だと思います。いつかは、AIが人間と同じように（感情を持って）判断できるようになるかもしれませんが、そのときは世界が変わってしまい、我々の手に負えないかもしれません」

Bancroft氏は次のように述べています。「デザイン上の問題解決やクリエイティブデザインなど創造性には様々な形がありますが、それは既に起きたこと、あらかじめ定義されたことか、経験にもとづくアイデアや考え方から生まれるものです。「AIだけでライブ体験を演出するキャッチフレーズやレアなマスコットを作ってもらうことはできるでしょうか？ AIがそこまで自由な発想をするか知りませんが、するとしたら、それこそ人類の行く末が心配になります。『ターミネーター』の見過ぎかもしれませね」

> デザイン上の問題解決やクリエイティブデザインなど創造性には様々な形がありますが、それは既に起きたこと、あらかじめ定義されたことか、経験にもとづくアイデアや考え方から生まれるものです

まとめ

テクノロジーの進歩により、従来のクリエイティブ制作の方法が変わるとしても、それは必ずしも悪いことではありません。実際、クリエイティブ共同作業ツールを職場に導入するメリットが1つも思い浮かばない人は、調査対象者のわずか3.1%です。その他の対象者からはクリエイティブプロセスにこれらのツールを導入する様々な理由として、生産性の向上（16%）、ビジネスの成長（12.9%）、成果の向上（11.7%）、コミュニケーションの向上（9.2%）、アイデアの増大（8.6%）、幸福感（7.4%）、一貫性（4.3%）、クライアントの満足度（4.3%）、多様性（3.7%）などが挙がりました。

クリエイティブ共同作業ツールがビジネスにどのように役立つかが明確でないのは否めませんが、このような懸念に対しては、クリエイティブツールのプロバイダーによる教育や機能向上で急速に対応が進んでいます。多くのクリエイターが、テクノロジーが自分たちの創造性を脅かすという根強い懸念を払拭し、人間の想像力を模倣する力は生まれないと考えている中、一部の懸念を優先させるべきではありません。

懸念を横に置き、新しいツールを試し、実際に使う人だけがその恩恵を受けることができそうです。今後数年間でクリエイティブデザインがどれだけ重要になるかについては、まだ曖昧な部分があり、回答者の42%は、企業がこれらのツールを導入することがより重要になると考える一方で、43%は導入状況が大きく変わることはないと予測しています。

ツールはアイデアを実現し、新たな実行可能性を広げるもの

テクノロジーと機械学習の進化の速度と、他のビジネスや業界がどれだけそれに依存し始めているかを考えると、これらのツールがクリエイターを邪魔することなくプロセスを合理化し、需要に対応する能力に貢献する影響を考えないのは甘いのではないでしょうか。従来のやり方を完全になくす必要はありませんが、クリエイティブチームと企業は、時代の変化に合わせて適応し、進化する準備が必要でしょう。The Drumとアドビは、マーケターが正しい情報にもとづき最高の成果を出せるように、テクノロジーと共同作業ツールの台頭に対する意識の向上に努めています。

AntoniのAva氏は次のように締めくくりました。「ツールはアイデアを実現し、新たな実行可能性を広げるものです。それが未来であり、我々がこれから通るべき道です」

法人向けCreative Cloudグループ版

あらゆるスキルレベルに合わせた20を超えるアプリが含まれます。業界標準のデザイン、web、写真、動画制作ツールに対応可能なアプリだけでなく、ライセンス管理を容易にするコンソールや、エキスパートによるサポートやトレーニングなど個人版にはない法人向けの機能やサービスが揃っています。

共同作業ツールがすべてのクリエイティブアプリに組み込まれているため、素材を安全に保存、共有、同期することが容易になり、どこにいても優れた作品を制作できます。

詳しくは、**adobe.com/jp/creativecloud/business/teams.html**をご覧ください。

CREATIVE CLOUD FOR TEAMS

The Drum | Adobe